## スタッフメッセージ

**小野寺 猛**
TAKESHI ONODERA

日々スタッフの賄いを作ったり、水曜日のコーヒー焙煎や土曜日のサロンでコーヒーを入れたりしています。今後はコーヒー染めもまた再開しようと思っています。これからもどうぞよろしく！

**加藤 歩**
AYUMI KATO

貧困が、健康で文化的な生活を損なうだけでなく、人としての尊厳を保つことを難しくしてしまう。あるいは貧困から抜け出すために制度を利用しようとすると、尊厳を傷つけられることを覚悟しなくてはいけない。そんな社会を変えたいです。この社会には、残念ながら〈もやい〉がやらなくてはならないことが、まだまだたくさんありそうです。

**小泉 幸子**
YUKIKO KOIZUMI

〈もやい〉の事務局で仕事を始めたのが2009年５月８日。今年で９年目になります。事務だけではなく日々いろんなことがありました。〈もやい〉は寄附者の方、ボランティアの方に支えられここまで来れました。つながりを大事に、これからもたくさんのボランティアの方との出会いを楽しみに、大切にしていけたらと思います。よろしくお願いします。

**佐々木 大志郎**
DAISHIROU SASAKI

自分が〈もやい〉に関わって約５年。この間、生活困窮者支援をとりまく現状、そして社会のなかでNPOが果たす役割はめまぐるしく変化し、そのスピードは増していっていると感じています。働く個人として、その変化に対応するスキルを常に開発していくことはもちろんですが、今年はより本質的に「本当に社会問題解決へ寄与するとは？」を考え、実践していく年にしていきます。

**田中 悠輝**
YUKI TANAKA

昨年の３月に〈もやい〉に入って約１年が過ぎました。事務所の引越しに始まり、毎週のサロンのお手伝いをしながら、働く場の新事業として農作業やコーヒー焙煎などをはじめ、慌ただしい１年でした。さまざまなところで居場所をつくるべく奮闘しております。来年は不動産事業の方にも参加する予定です。がんばります！

**土田 功光**
ISAMITSU TSUCHIDA

わが人生、おそらく折り返し点は過ぎた。本来であれば、社会に“何某か”を返していく時期だが、なんとそのタイミングで〈もやい〉と出会い、初見の世界でさらに“学びのとき”が続いている。さて、間に合うか……。
そして、春から新しい世界に一歩踏み込む。ひとりでも多くの笑顔に結びつけたい。さぁ、もう一踏ん張り！

**松下 千夏**
CHINATSU MATSUSHITA

〈もやい〉でさまざまな方とお会いするなかで、自分の生き方を改めて考える機会にもなりました。そして感じるのは、「美味しいもの」「楽しいこと」はやはり笑顔を生み出しますし、お一人お一人との「顔の見える交流」は、新たな化学反応を生み出すということです。これからもそんな機会をつくっていければと思います。

**武笠 優子**
YUKO MUKASA

〈もやい〉のスタッフとなって早２年半。気がつくとボランティア時代を含めるともう６年〈もやい〉に通っていることになります。ずっと変わらないことは、〈もやい〉に通うことが好きということです。今年は入居支援事業のパワーアップをはかりつつ従来の業務にも引き続きていねいに向き合っていきたいと思います。今後ともよろしくお願いします。

**結城 翼**
TSUBASA YUKI

〈もやい〉のスタッフとなって早１年が経過しました。この１年間は目の前にあることをこなすことで手いっぱいでしたが、今年は生活相談のさらなる充実を図りつつ、１人でも多くの人の、「貧困」というものに対する考え方がより豊かなものとなるよう、尽力したいと思います。今年もなにとぞよろしくお願いします！


自立生活サポートセンター・もやい
活動報告書

2018年2月17日発行
認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい
〒162-0801 東京都新宿区山吹町362 みどりビル 2F
TEL :03-6265-0137 ／FAX :03-6265-0307 ／E-mail: info@npomoyai.or.jp




もやい

認定NPO法人
自立生活サポートセンター・もやい

# 活動報告書

2018年2月

## もやい活動報告会によせて

僕がはじめて〈もやい〉を訪れたのは2010年。当時、僕は新宿で活動する新宿連絡会というボランティアグループに参加し、新宿で炊き出しや夜回り、福祉行動と呼ばれる生活保護申請の同行などに関わっていました。日夜、新宿で支援に関わるなかで、路上で亡くなる方の存在や、不十分な福祉行政の実態などを目の当たりにし、個人でできる支援の限界を感じていました。

〈もやい〉は、相談日には20名以上のメンバーが相談に携わり、また、保証人提供や居場所づくりをはじめ、仕組みとして一人ひとりの方を支えています。

もちろん、小さな団体ですから、できないことも多いのですが、「社会を変える」という強いメッセージに、〈もやい〉の外で支援に疲弊していた僕は、〈もやい〉の活動がまるで「灯台」のようだと感じたのを強く覚えています。

〈もやい〉に参加するようになって、強く意識したのは、〈もやい〉のミッションでもある「貧困問題を社会的に解決する」ということです。

一人ひとりの方と出会い、つながり、支援を届けていく。しかし、それだけではなく、支援の輪が、つながりがより拡がっていくように、各地の団体と協力したり、社会の仕組みや支援制度にも変化をうながしていく。まさに、「灯台」のように確かにそこにあって光を放ち、暗闇のなかにある人に、霧のなかで支援に携わる全国の人たちに、希望の光を届けていきたい、そう考えています。

2018年で〈もやい〉は18年目に入ります。

これからの〈もやい〉のチャレンジにもご期待ください。

2018年2月17日　理事長　大西 連

## CONTENTS


P2　生活相談・支援事業報告
P3　入居支援事業報告
P4　交流事業報告
P5　広報・啓発事業報告
P6　会計報告
P7　ボランティアメッセージ
P8　スタッフメッセージ

# 生活相談・支援事業

## 1. 事業の内容

生活相談・支援事業では、生活に困窮した方からの相談に、面談・電話・メールなどで対応しています。その他、生活相談から見えてきたものを社会に発信していくために広報・啓発事業とも連携したり、相談にかかわる人材の育成にも力を入れています。生活相談・支援事業におけるコーディネーターを大西、加藤、結城の3人が務め、実際の面談相談や電話相談の現場では、多くのボランティアが活躍してくれています。

現在は、毎週火曜の相談のほか、火曜と金曜の電話相談を主な活動として行っています。ほかに、火曜の面談にいらっしゃった相談者が生活保護制度等を利用する際の申請同行を行っています。

2017年は面談での相談が658件、生活保護等の申請が132件、電話での相談が2451件、メールでの相談が482件となりました。

この３年間の記録をみると、①面談の相談件数と申請割合の微増②女性相談の割合の増加③電話相談の件数の減少といった傾向が確認されます。とくに、女性相談の割合は今年になって３割を超えており、広義のホームレス支援団体の中での〈もやい〉の大きな特徴の1つとなりつつあります。

生活相談の面談中の様子

## 2. 新しく始めたこと――ニーズの変化に対応し、相談の質を向上するために

2017年に生活相談・支援事業で新しく始めたことは大きくわけて3つあります。

まず、〈もやい〉ではこれまでは行っていなかった金曜日の申請同行を始めました。これまでは火曜日に相談を受けて水曜日に同行を行ってきました。しかし、相談者からのニーズもあり、9月から金曜日の申請同行を開始し、より柔軟な支援体制へと変わりました。

次に、一時的に中断していた、生活保護制度等の申請を行った方への電話によるアフターフォローを再開し、サロン・ド・カフェこもれびで利用できる無料ランチ券をお渡しすることにしました。このことによって、生活相談にいらした後、サロンなどの交流事業にも来ていただくようになった相談者の方もいらっしゃいます。

第三に、近年相談体制が変わったこと、また相談の内容が複雑になってきたことを受けて、今年はボランティアの研修の充実にも力を入れてきました。来年度も引き続き研修に力を入れ、相談の質の向上に取り組んでいきます。

## 3. 生活相談・支援事業のさらなる展開――貧困問題を「社会的に」解決するために

昨今、生活保護制度を含めた社会保障制度全般に対する風当たりが強くなり、制度運用の見直しや法改正に向けた動きが目立っています。

このような状況のか、今後の〈もやい〉の生活相談・支援事業は、広報・啓発事業との連携のなかで、日々の活動のなかで直面する貧困の実態と制度の問題を、市民一般と行政に対して訴え、広めていくことにこれまで以上に力を入れていきます。

具体的には、行政・政党に対する政策提言、市民に向けた講座の開催、広報・啓発事業と連携したウェブ上での広報活動のそれぞれに、力を入れて取りんでいきます。



# ボランティアメッセージ

ボランティアは人の為ならず。もやいに繋がる相談者たちは、私たち社会の課題を身をもって提示してくれます。相談者に向き合えることは私にとって貴重な経験で、私がボランティアするのは自分の為です。　市村さん

〈もやい〉での活動６年。正解のない（みえない）中で、もがいています。もがきながらも、相談者の方々に「大丈夫！ ひとつひとつ、一歩一歩」と声をかけながら、同じ言葉を自分自身にもかけていこうと思っています。　足立さん

色々と参加していますが、手探りの状態です。少しずつですが、やることを見つけました。これからも修行です。　菅野さん

人とのつながりを大切に考えるもやいの中で、自分の考えの枠にとらわれず、思いやりを持って、様々な人と助け合い支え合えるつながりを広げていきたいと思っています。　牧野さん

飯田橋のアゼリアビルから通い始めて、江戸川橋のみどりビルへ。ちょっと遠くなったのですが、暖かいふんいきは変わらない。こんな”もやい”に少しでも長くかかわれたら幸せです。　林さん

生活保護を受けてからアパート入居までの待機場所が劣悪なことに驚きました。税金で貧困ビジネスを養っているようなものだと思います。待機場所の改善と早期のアパート入居を目指したいです。　遠藤さん

そろそろ一年経ちます。みな様の暖かいサポートのお蔭で、充実した日々を過ごしています。これからもよろしく。　川上さん

もうすぐ二年となります。相談をしていると、一人一人の人生の物語が見えます。また、幼少期の体験や社会背景が現在に影を落としているのが切実に伝わってきます。　町田さん

もやいの活動にボランティアとして参加して2年半。まだまだ力不足ですが、必死な思いで相談に来られる人たちの手助けができるよう、知識や聴く力を身につけていきたいと思っています。　田村さん

もやいにはソーシャルアクションが求められていると思うが、団体としては強く打ち出せていないし、ボランティアだとコミットしづらい。広い一般社会との対話や行政との対立ではない協働があるなら参加してみたい。　宍戸さん

いろんな形で繋がれることがあればいいかなと思っています。やることがなくてずっと家にいるのはやっぱり良くないと思うんだよ。美味しいものを食べに行く部なんかもあったらいいなあ、と思う。　Ｇさん

一つずつ学べていけるので嬉しいです。今はコーヒー焙煎を覚えることができればいいと思います。販売やそういったこともできるようになっていけばいいな、と思います。　越智さん

もやいは相談しやすいところ。その時解決策を提供できれば一番良いが、そうでなくても何か話を聞いてくれた、自分と一緒に考えてくれたと思える場になれば良いと思う。人を孤立させない一つの場所としてあってもらいたいと思う。　大竹さん

もやいは“まかない”が付きます。これが旨いんですよ。因みに今日は具だくさんカレーです。３人前ほど頂きました。相談者の皆様にもさし上げております。げっぷが出るまで食べていってくださいませ。それがもやいの心ですから。　高田さん

これからも入居のお手伝いを続けたいと思います。家さがしのお手伝いもできたらと思っています。　東さん

生活相談のボランティアとして、相談者の希望に沿ったことができたのかで悩むことばかりです。相談者が社会の中で普通に生きていけるようにお手伝いをさせていただければと思っています。　岩瀬さん

もやいは、ホームレス状態だった私に、部屋に入るチャンスをくれた場所。人とのつながりを捨ててきた私に、新しいつながりをつくるチャンスをくれた場所。「グリーンネックレス」で一緒にすごし仲間と出会わせてくれた。もやいはたくさんの人たちの夢を乗せて、これからもふくらんでいくのでしょう。どこに向かっていくのかを、私も楽しみにしています。　山口さん

積極的に死にたいというわけでなくても何のために頑張り続けるのかが分からない日がある。私にとってグリーンネックレスは、自分のダメさ・苦しさも安心して語り合える仲間がいる場所だ。今では生きる力を与えてくれる「私の大切な場所」になっている。　山﨑さん

八百万の神がもやいに足を向けさせる。制度、権威による既存のルール、規範から離れ、目の前のそれぞれの生活や思いに問を立て、共に頑張る。落ち着く先までの通りがかりの出会。もう少し何とかならないものかと思う。　橋本さん

# 交流事業

## 1. 事業の内容

現在、交流事業ではアパート入居後の孤立を防ぐため、食事会や行楽など「もやい結びの会」（互助会）の会員を中心とした交流の場を設けています。

そして、誰でも気軽に立ち寄れる交流サロン「サロン・ド・カフェ こもれび」を定期的に開催しています。具体的には、最終週を除く毎週土曜日が「サロン・ド・カフェ こもれび」の営業日。ボランティアのみなさんにお手伝いいただきながら、ランチやドリンクを提供し、ゆっくりくつろげるスペースをつくっています。また、前日の金曜日には、ボランティアのみなさんとともに翌日のサロンの準備をしています。

月２回木曜日には、女性の居場所「グリーンネックレス」を開催。女性が安心して過ごせるスペースです。また、月２回日曜日には、若者の活動場所「ランタンベアラ こもれび」を開催しています。

そして2017年から新しく「はたらく場づくり」としてコーヒー焙煎と農作業がスタートしました。毎週水曜日に、コーヒー焙煎と農作業を交互に行っています。

その他、もやい結びの会の恒例行事として、「お花見とお墓参り」「棚経」「敬老会」「秋の法要」を行い、〈もやい〉全体の行事として周年パーティーやクリスマスパーティーなど行っています。

## 2. 当事者の力が生きる新たな経験の場

前述のとおりはたらく場づくりの事業として、まだまだ試験段階ではありますが、「農作業」と「コーヒー焙煎」を新しく開始しました。それぞれ水曜日に隔週で開催しております。

コーヒー焙煎の様子

農作業は、中央林間にある「農業生産法人なないろ畑」という団体の協力を得て、行っています。昨年は芋掘りや大豆づくり、野沢菜漬けなどさまざまな体験をしました。農業体験を通し、対人関係を積み上げる経験をするとともに、おすそ分けしていただいた農作物をどのように食べるか考えることを通して、食生活の見直しを図ることができています。

コーヒー焙煎は、事務所内のサロンスペースにて古い焙煎機２つを並べ、それぞれの参加者のペースに合わせて、行っています。サロンでの提供を目下の目標とし、安定して焙煎できるように練習を続けています。また、サロンに来てくださったお客さまとの出会いから、小学校での出張サロンの企画をいただき、コーヒー焙煎チームで参加しました。早くもさまざまなところでお声かけをいただいております。

## 3. みんなが自分らしく生きられる場を

「サロン・ド・カフェこもれび」は昨年度大変好評だった出張サロンを再度開催し、より地域のひとたちを巻き込んだ「居場所」をつくっていきます。

また、コーヒー焙煎と農作業の「はたらく場づくり」では、メンバーシップをさらに募りながら続けていきます。

「ランタンベアラ こもれび」は、参加するメンバーに就労している方が増えてきたことから、夜に開催するイベント的な機会を試みていく予定です。

それぞれの場所で、どのようなことを試みていくにせよ、関わっていただける当事者の方の主体性を大事にしていきながら、そのニーズに沿ったものにしていくことが大事だと考えています。

広い意味で生活に困窮された方を中心に、この社会で自分らしく生きることを考える方々をまきこみながら、多様な場を今後もつくっていきます。どうかこれからも〈もやい〉の交流事業を見守っていただけますよう、お願いいたします。



# 広報・啓発事業

貧困問題を「学ぶ・伝える」レクチャーセミナー in 山形

## 1. 事業の内容――つねに社会の動きとともに

現在定期的に行っていることとして、機関誌「おもやい通信」の年４回の発行、月２回の「もやいセミナー」の開催があります。

また、2014年度から「これだけは知っておきたい！貧困問題基礎講座」を毎年開催しています。丸２日間、貧困問題について講義やワークショップを通して多様な側面から学ぶ講座で、これまで延べ160名ほどの方が参加されました。

さらに、2016～2018年度の３年間で全国18都道府県にて「貧困問題を『学ぶ・伝える』レクチャーセミナー」を順次開催。これは、貧困問題について発信できる人を育成することを目的としたセミナーです。参加者からは、「今度は自分が講師になって勉強会を開催した」という報告もいただいていて、広がりを実感しています。

そのほかの啓発活動としては、2017年１月～12月の間に新聞・雑誌等からの取材依頼対応約40件、さまざまな団体からの講演依頼対応約20件、テレビやラジオなどへの出演依頼対応もおこないました。

加えて、10月には衆議院解散に伴う緊急声明「貧困対策を最優先課題にしてください」や、12月には生活保護引き下げ検討との報道に対する緊急声明「生活扶助基準の引き下げを止めてください」をおこなうなど、大きな社会の動きに対して積極的な提言活動を続けてきました。

また2018年1月には労働関係のイシューに取り組む団体AEQUITAS（エキタス）と共同で、引き下げの問題をわかりやすく伝えるパンフレット制作と、生活保護引き下げに反対する街宣を実施しました。

## 2. 新たな試み――もっと〈もやい〉を知ってもらうために

2017年度以降、主にWEBおよび印刷物での広報展開では、①団体創業から16年以上経過したことを踏まえ改めての広報的な団体ストーリーの整理、②WEBの強化に伴う多様なツール導入、③ご寄附に至るアクションの整理や分析を、大きな方針として打ち出してきました。

上記①への対応としてアートディレクション・企業デザインを手掛ける株式会社PARK様にご相談させていただき、いわゆる〈もやい〉の「ブランディング」を再考。それに合わせたグラフィックデザインやキャッチコピーを制作し、団体パンフレットを改訂。同一のデザインとコピーにて、年末年始寄附の呼び掛けに対応したランディングページをオープンし、キャンペーンとして展開しました。

また②への対応として、団体を応援していただいた方とのつながりの「面」を増やす一環として、メールマガジンを開始。また、潜在的なファンへリーチするためFacebook広告を限定的に活用しました。

③については、協働団体であるSVP東京様のメンバーに広報チームに加わっていただき、他団体での広報運用事例のご紹介や、各種制作過程での分析や整理、実際の分析作業などについて幅広く、密にコミットしていただきました。

## 3. 今後の展開

セミナーを柱とした啓発については、これまで「貧困問題基礎講座」を４回開催しましたが、参加された方から「時間が足りなかった」「さらに詳しい話も聞きたい」という声が挙がっており、来年度以降「中級編」「実践編」など、よりいっそう踏み込んだ内容の講座開催を企画していく考えです。

加えて上記の「新たな試み」を継続・展開しつつ、特にファンドレイズでは遺贈寄附などに注力していければと考えています。

どうか今後とも〈もやい〉広報にご注目いただければ幸甚です。

# 会計報告

## 1. 近年のもやい財政

〈もやい〉の財政の最大の特徴は、収入の80％前後を個人（年2000人弱）中心の寄附金で賄っていることです。行政の補助金や助成金で事業を行うNPOが多いなか、とても稀有な存在であり、多くのみなさんのご厚意があってこそ成り立つ事業となっています。

“年越し派遣村（2008~09年度）”を契機に一挙に膨張した〈もやい〉の財政は、経費の大幅な削減に加え、14年に寄付金控除が受けられる“認定NPO”になったことや地道な寄附集めが功を奏し、15年度に赤字からの脱却に成功しました。翌16年度は事務所移転という大イベントもあり、若干の赤字を計上しましたが、今年度は大口の遺贈寄附もあったため、再度黒字への転換が見込まれています。

とはいえ、寄附者のおよそ半数が上記“年越し派遣村”の頃から長年にわたり継続して支援いただいているみなさんであ（16年12月の寄附者調査による）、高齢等を理由に寄附を続けることが難しいとのご連絡をいただくことも増えています。新たな取り組みを進めるためには、さらに多くのみなさんへ寄附の呼びかけが不可欠な現状です。

## 2. 2017年の支出

「相談」をはじめ“ヒト”に依拠する事業が多い〈もやい〉では、従前より“人件費”が支出のおよそ半分を占めています。社会保険の負担増もあって増加気味ですが、最小限の人数で事業を回しているため削減も難しいのが実情です。

“役務費”をみると、入居支援事業の連帯保証人としての補填費用が60％を占めます。件数は暫減しているものの、その内訳が滞納家賃の補填から退去（死亡・失踪等）時の引払い費用や原状回復費の補填にシフトしているため、高額の支出が増える傾向にあります。

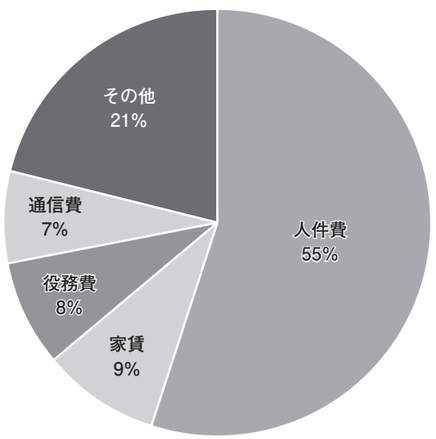
なお、「その他」には昨年３月の引越関連費用がおよそ190万円計上されていますが、その他に造作工事費や敷金（会計上は「資産」として計上）として約330万円の支出がありました。

**〈もやい〉収支の推移**

| 年度 | 総収入（万円） | うち寄附収入（万円） | 総支出（万円） | 収支（万円） |
|---|---|---|---|---|
| 2002 年度 | 613 | 564 | 461 | 152 |
| 2003年度 | 483 | 261 | 512 | ▲ 29 |
| 2004年度 | 840 | 212 | 661 | 179 |
| 2005年度 | 1,392 | 686 | 1,217 | 175 |
| 2006年度 | 2,277 | 1,692 | 2,325 | ▲ 48 |
| 2007年度 | 3,654 | 2,934 | 2,839 | 815 |
| 2008年度 | 11,554 | 10,743 | 3,032 | 8522 |
| 2009年度 | 7,042 | 5,831 | 5,289 | 1753 |
| 2010年度 | 3,676 | 2,882 | 5,822 | ▲ 2146 |
| 2011年度 | 3,710 | 2,647 | 5,576 | ▲ 1866 |
| 2012年度 | 3,922 | 2,844 | 5,517 | ▲ 1595 |
| 2013年度 | 3,926 | 3,050 | 4,694 | ▲ 768 |
| 2014年度 | 4,188 | 3,169 | 4,623 | ▲ 435 |
| 2015年度 | 4,320 | 3,533 | 4,122 | 198 |
| 2016年度 | 4,464 | 3,494 | 4,585 | ▲ 121 |
| 2017年度 | 3,947 | 3,450 | 3,698 | 249 |

※2017年度は12月までの金額

**2017支出項目別割合**






# 入居支援事業

## 1. 事業の内容

入居支援事業では、主に連帯保証人と緊急連絡先の引き受け（これまでのべ約3000世帯）を行っています。〈もやい〉設立当初からこれまで、連帯保証人や緊急連絡先がない方のために、多くのスタッフとボランティアが途切れることなく、バトンをつないできました。

## 2. 最近の変化

事業開始から16年が経過し、さまざまな変化が生じています。

まず、保証会社の利用が一般化し、連帯保証人ではなく緊急連絡先の引き受けを求められるケースが多くなりました。また、高齢化が進み、孤独死・ごみ屋敷、アパート老朽化による立ち退きなどの問題が増え、さらに、若・中年層では、精神疾患の罹患など、他分野の支援が必要な方が多くなってきました。

連帯保証人の契約が済み、みんなでまかないを食べる

更新時には、事務所＝みどりビルまでご足労いただいています。いまの暮らしぶりをおたずねすると同時に、〈もやい〉の“いま”も見ていただき、〈もやい〉との関係性をもう一度結びなおす貴重な機会です。ところが、お見えにならず、さらに連絡もとれない方もおられ、その場合にボランティアの方とともにアパートを訪問するという取り組みを新たに始めました。

また、「連帯保証人として動くことが適切かどうか」を念頭にしつつも、大家さんやケースワーカーとのやり取りを今まで以上に重ねることで、さまざまなトラブルが深刻化することを防ぎ、アパート生活の継続に結びついた方もいらっしゃいました。

## 3. 新たな挑戦――限界を超えて、新たな課題に向き合う

これらの“新たな課題”に対応するなかで「連帯保証人」という立場でできることの限界を感じる機会が増えてきました。大家さんから滞納の連絡が入るのは数か月分溜まってからが多いためその間に失踪してしまう方、更新時にごみ屋敷の改善を求められて初めて深刻なお部屋の様子が明らかになる方、一時金申請手続きがうまく進まない方、自力では良い物件を探せず、施設から出るに出られない方……。

そこで、アパート入居の仲介をする不動産事業スタートの準備をすすめています。

ちょっとお節介な不動産屋さんとして、アパート入居が叶うように手続き面をサポートしたり、地域包括支援センターや民生委員などの地域資源との連携、さらには大家さんと直接関係性を築くことでトラブルの芽をいち早く摘むなど、「入居の維持・継続」に努めていきたいと考えています。また“協力大家さん”を広く募ったり、地域で連携できる“不動産屋さん”を開拓することも必要なため、今まで以上にボランティアのみなさんの多くの協力が必要となります。事業を始めれば、さらに多くの課題が見えてくるのも確実（笑）。“身の丈”というよりは、“ちょっとだけ無理する”スタンスで、10年、20年後にスケールアウトできることをめざしつつ、この新たな事業に取り組んでいきます。

入居支援事業では、今後もお一人おひとりと向き合い、一つひとつの問題をていねいに解決していくことを通じて、”もやい結びの輪”を拡げ、つなげていきたいと思いを新たにしています。